

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号		5	学校名		甲府西高等学校	
全・定・通		全	学年	1	在籍生徒数	173 名
教育目標 (学力に関するもの)			・個別最適な学びや協働的な学び、探究的な学びなどを通して主体的に学力を育成する。 ・グローバル化の進展やデジタルによる社会の変革など、時代の変化に対応した教育活動を展開する。			
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力			学び方を学ばせる視点のもとでの、主体性を引き出す深い学びにより、批判的な思考をととして本質を粘り強く追求しようとする探究的に学びとる力			
各教科の取組						
教科	身に付けさせたい資質・能力		中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	自らの言語生活を豊かにするために必要な基礎的知識が身に付いている。		3.1	3.3	日常生活の中で積極的に言語に関する知識・技能をさらに向上させようとする姿勢を醸成する仕組みづくりをする。	
	言語を用いて批判的に思考・判断し、自己の意見や考えを主体的に表現することができる。		3.2	3.3	様々な形式の文章に触れることによって培われた批判的な思考力・判断力と主体的な表現力をより深めさせる取り組みを推進する。	
	深い探求心を持って課題を発見し、自ら学び考えようとする。		3.8	4.1	文学的文章を題材とした主体的に課題に向き合えるような教材の設定を工夫する。	
地公	歴史的な見方・考え方を働かせ、物事の因果関係や背景を踏まえながら理解することができる。		3.1	3.3	各単元で、どの様に既習事項を使うことが出来るかを意識させ、因果関係や背景が説明できるようにする。	
	様々な史資料から学んだことを元に多面的・多角的な考察を行うことができる。		3.6	3.6	史資料から読み取る活動について、史資料から直接読み取れることをまとめる活動に加え、史資料の背景を考察する活動を行う。	
	現代における諸課題を主体的に追究し、18歳成人に向けより良い社会を探究する姿勢が身に付いている。		4	4.1	学んだことと実社会の文脈を明確にし、学んだことをもとに今の社会について考えることができるようにする。	
数学	数学的な見方・考え方を働かせ、主体的に物事を考えることができる。		3.5	3.7	数学的な見方・考え方の良さを身につけそれを実感できる段階にある。今後はより主体的な取り組みを促していく。	
	数学を活用して事象を論理的に考察し、その本質を数学的表現を用いて発表できる。		3.3	3.6	数学的な議論を活発にできるようになってきているが、本質を捉えるところまでには物足りない。教員側から適切なアドバイスを提供していく。	
	ICTを活用し、様々な事象を数学的に捉えられるようになる。		3.8	4.1	年度当初からICTを積極的に活用しており、生徒の個人端末も有効活用できている。空間図形を視覚的に捉えるなど、ICT活用の利点を享受できている。	
理科	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などの基礎基本を理解する。協働的な学習を行い、ICTの効果的な活用ができる。		3.4	3.8	学習目標を単元毎・授業毎に明確化する。協働的な学習の推進とICTの効果的な活用により個別の学習を支援する。	
	学んだ科学的な知見を日常生活や社会との関連を図りながら、科学的に探究することができる。		3.2	3.6	学習事項と日常生活や社会との関連を結びつける問題・課題を提示し、協働学習や課題レポート等を通じて科学的に考察させる。	
	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする。		3.8	4	主体的に科学に触れたいと興味を抱かせるような授業の工夫や、発展的な内容や科学的な時事問題などの話題を積極的に提示する。	
英語	英語の4技能5領域(聞くこと、読むこと、話すこと[発表]・話すこと[やり取り]、書くこと)のバランスのとれた言語運用能力とそれを支える確実な知識及び技能		3.6	4	与えられたフォーマットを用いてのやり取りや、準備をしてから臨める発表においては、読んだり聞いたりしたものを自分の考えを述べるといった活動において、一定の成果が見られた。書くことにおいては知識・技能の習得が足りておらず、正確性に欠けている。	
	自らの考えを的確に表現したり、相手の考えや物事に対して批判的に考えたたりできる思考力・判断力・表現力		3.1	3.4	日常的な話題であれば自分の意見を言うことはできるが、社会的な話題については目的、場面、状況に応じて意見を述べることがまだできていない。また表現の幅が限られている。	
	自ら積極的に学ぼうとしたり、コミュニケーションを取ろうと主体的に取り組む態度		4.4	4.6	英語をコミュニケーションツールとして使用する機会が乏しく、まだその意識が薄い。生徒同士や対教師とコミュニケーションを積極的にとろうとする姿勢はみられる。	
芸術	発想や構想をしたことを基に創造的に表すことができる。		3.5	4	創造的な表現の幅が広がるよう、様々なジャンルの芸術様式をはじめ、芸術以外の観点からも発想の一助となる授業を展開する。	
	様々な作品の見方や感じ方を深める鑑賞ができる。		3.7	3.9	単一的な捉え方に留まらず、多用な文化・時代などの文脈の視点も取り入れながら感じ取る力を育んでいけるよう引き続き支援する。	
	主体的に芸術の創造活動に取り組み、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、心豊かな生活や社会を創造していくとする。		4.1	4.3	先を見据え、一過性の活動学習とならないように、生徒の芸術活動を展開できるよう支援する。	
家庭	生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営むために必要な基本的な知識と技能を身に付けることができる。		4.3	4.4	生活に必要な知識・技能の習得のため、個別最適な学習の実施と共にICTの効果的な活用により生徒の学習を支援する。	
	他者の考えを受け入れ、課題の解決策を構想し、自己の意見や考えを論理的に表現することができる。		4.4	4.5	協働的な学習を通して、課題解決策を考察する。また、課題レポートを論理的に表現できるように、プレゼンテーションを実施し、共有できる場を設ける。	
	主体的に生活課題を見つけ、他者と協働し、探究的・実践的に創造しようとする。		4.2	4.3	主体的に生活課題を見つけるため、実生活に結びつけ、興味・関心を抱かせるような授業の工夫と発展的な内容を積極的に提示し、学びを深めるさせる。	
保体	運動・保健の合理的、計画的な実践を通じて、運動の多様性や体力の必要性について理解すると共に、それらの技能を身に付ける。		4.1	4.3	多様な種目に挑戦する機会を設けると共に、運動の構造を明確にし、主体的に体力や技能の向上を目指すように支援していく。	
	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間と考えたことを他者に伝えることができる。		3.5	3.8	ICTをさらに多くの場面で活用し、課題の発見や他者への伝達をスムーズに行えるようにする。	
	運動における競争や協働の経験を通じて、互いに協力する。一人一人の違いなどを大切にしようとする意欲を身に付ける。		3.9	4	技量の違いを受け入れながら、他者と協力できるようになった。競争や協働の経験ができる場の提供を増やし、自己や他者の理解をさらに深められるようにしていく。	

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報				
総探	自らの役割を果たしつつ、他者の考えや立場を理解し、他者と協力できる。	—		リサーチクエストの内容が似ている者同士では、協力して調査・研究をできるようにする。
	自らの思考や感情を律しつつ、物事を前向きに考える力がある。	—		知識自体を疑い、より深い思考ができるように、知識に磨きをかけていく。
	課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決できる。	—		問題意識を鋭え、より鋭いリサーチクエストを設定できるようにする。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)			R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う			89.3%	92.6%
話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う			92.2%	95.7%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う			97.6%	99.0%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う			93.2%	96.4%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う			85.7%	90.7%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う			83.4%	87.9%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた ①強くそう思う, ②そう思う			85.6%	86.4%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う			72.8%	78.7%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
・学習指導が充実しており、学力向上に十分な成果を上げていると思う。
・学習評価には様々な観点を取り入れられており適切に行われていると思う。
・学力がつくという実感を伴い、学習意欲が湧くような学習課題を出してはほしい。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
・探究的学習を意識した授業改善に多くの教員が取り組んでおり、今後も継続して取り組んでいきたい。
・生徒の自主的・主体的な学習を育むための効果的な課題への取り組みせ方を考えていき、生徒が意義を理解した上で取り組めるものにしていきたい。
・生徒アンケートの結果ではICT機器が有効に活用されているという回答を多くの生徒から得ており、今後さらに活用していきたい。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号		5	学校名		甲府西高等学校	
全・定・通		全	学年	2	在籍生徒数	195 名
教育目標 (学力に関するもの)			・個別最適な学びや協働的な学び、探究的な学びなどを通して主体的に学力を育成する。 ・グローバル化の進展やデジタルによる社会の変革など、時代の変化に対応した教育活動を展開する。			
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力			学び方を学ばせる視点のもとでの、主体性を引き出す深い学びにより、批判的な思考をとおして本質を粘り強く追求しようとする探究的に学びとる力			
各教科の取組						
教科	身に付けさせたい資質・能力		中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	実社会で活用するために必要な基礎的知識・技能(読む、書く、話す・聞く)が身に付いている。		3.4	3.6	既習事項の確実な定着のために、単元ごとに表現課題を設定するなど知識・技能を使い続けるような工夫をする。	
	言語を用いて批判的に思考・判断し、自己の意見や考えを主体的・論理的に表現することができる。		3.3	3.5	形式や場面に応じた表現の仕方を身につけさせるために、意見文やエッセイなど様々な形式での言語化活動を行う。	
	深い探求心を持って課題を発見し、自ら学び考えようとする。		3.8	3.9	論理的文章と文学的文章を関連させるなど、生徒が主体的に課題に向き合うことができるように教材を工夫する。	
地公	各科目に応じた見方・考え方を働かせ、また連携・応用させながら、物事を理解することができる。		3.1	3.2	各単元で、どの様に既習事項を使うことが出来るかを意識させる。これを地理・公民・歴史間でも行える様にする。	
	様々な史資料から学んだことを元に多面的・多角的な考察を行うことができる。		3.7	3.9	史資料から読み取る活動について、史資料から直接読み取れることをまとめる活動に加え、史資料の背景を考察する活動を行う。	
	現代における諸課題を主体的に追究し、18歳成人に向けより良い社会を探究する姿勢が身に付いている。		4	4.3	学んだことと実社会の文脈を明確にし、学んだことをもとに今の社会について考えることができるようにする。	
数学	数学的な見方や考え方を様々な物事に应用することができる。		3.2	3.5	数学的な見方・考え方の良さを実感して、身の周りのことに活かそうしているが、まだ確に活用できていない。数学と物事を適切に結び付けられるように支援していく。	
	数学を活用して事象を論理的に判断・処理できるとともに、その本質を数学的表現を用いて説明できる。		3.1	3.3	数学的な議論を踏まえて事象を論理的に考えることができるようになってきている。本質をとらえつつあるが、表現する力は低い。表現する場を積極的に設けていき、向上させたい。	
	ICTを利用することで、数学的に捉えた物事や事象を深めることができる。		3.8	4.3	ICTを主体的に活用できるようになってきている。来年度はより物事や事象を深められるような活用を促していく。	
理科	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解する。協働的な学習を行い、ICTの効果的な活用ができる。		3.5	4.1	単元毎の学習目標を明確にする。協働的な学習の推進とICTの効果的な活用により、生徒が主体的に学習に向き合うことができるようにする。	
	学んだ科学的な知見を日常生活や社会との関連を回りながら、科学的に探究することができる。		3.6	4.2	学習事項と日常生活や社会との関連を結びつける問題・課題を提示し、協働学習や課題レポート等を通じて科学的に考察させる。	
	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする。		3.4	3.9	主体的に科学に触れたいと興味を抱かせるような授業の工夫と発展的な内容や最新の科学的な時事問題などの話題を積極的に提示する。	
英語	英語の4技能5領域(聞くこと、読むこと、話すこと[発表]・話すこと[やり取り]、書くこと)のバランスのとれた言語運用能力とそれを支える確実な知識及び技能		3.9	4	即興でのやり取りや、準備をしてから臨む発表においては、読んだり聞いたりしたもののから自分の考えを述べるといった活動において、一定の成果が見られた。書くことにおいては知識・技能の習得がまだ足りておらず、正確性に欠ける。	
	自らの考えを的確に表現したり、相手の考えや物事に対して批判的に考えたりできる思考力・判断力・表現力		3.4	3.5	日常的な話題であれば自分の意見を言うことはできるが、社会的な話題については目的、場面、状況に応じて意見を述べるのが十分にできないとは言えない。語彙・表現は、増やし続ける必要がある。	
	自ら積極的に学ぶ姿勢としたり、コミュニケーションを取ろうと主体的に取り組む態度		4.6	4.6	英語をコミュニケーションツールとして使用する機会が乏しく、まだその意識は薄い。生徒同士や対教師とのコミュニケーションを積極的に取ろうとする姿勢はみられる。	
芸術	作品の特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解できる。		3.3	3.4	全体の構成や色彩についても独自の感性を活かしながら捉えることができるよう支援していく。	
	感じ取ったことや考えたことなどを基にして、発想や構想することができる。		3.4	3.6	様々なアートムーブメントや時代の文脈の視点を汲んだ鑑賞を通して、新たなアイデアの創出に繋がるよう支援していく。	
	主体的に芸術の創造活動に取り組み、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、心豊かな生活や社会を創造していくこととする。		4.5	4.7	1年次で取り組んだ活動を発展できるように、一過性の活動学習とならないように、先を見据えた芸術活動を展開できるよう支援していく。	
家庭						
保体	運動・保健の合理的、計画的な実践を通じて、心と身体を一体として捉え、運動の多様性や体力の必要性について理解し、それらの技能を身に付ける。		3.7	4.1	運動の目標を明確にし、主体的に運動に親しみ、体力や技術の向上を目指せるように支援していく。	
	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、その合理的、計画的な解決に向けて思考したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすることができる。		4	4.1	自己や他者の運動課題を発見し、お互いにより良くするためのアドバイスをする機会を増やす。授業内の振り返り時間やICTを活用し、さらに力を高めるよう支援していく。	
	運動における競争や協働の経験を通じて、一人一人の違いなどを大切にしようとする資質を身に付けると共に、健康・安全を確保しながら運動を実践できるようにする。		4	4.2	技能や体力の違いに考慮しながら、他者と協力する姿勢が出来てきた。運動に集中している際にも周囲に目を配り、安全管理ができるようにする。	

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	効果的なコミュニケーションの実現やデータ活用への理解	3.9	4.1	データの活用場面をより増やすことで、多種多様なデータに対する理解を深めさせる。
	問題解決に向けて情報及びその技術を正しく活用する力	3.8	4.2	文系理系に関わらず情報技術を解決の選択しにしてもらえるように演習の機会を増やして、その実感を持たせる。
	情報社会に主体的に参画する態度	3.7	4	今年度以上に生徒の実態を汲み上げて、社会の一員として自分が発信者にも受信者にもなることを気付かせる。
総採	自らの役割を果たしつつ、他者の考えや立場を理解し、他者と協力できる。	—		リサーチクエストンの内容が似ている者同士では、協力して調査・研究をできるようにする。
	自らの思考や感情を律しつつ、物事を前向きに考える力がある。	—		知識自体を疑い、より深い思考ができるように、知識に磨きをかけていく。
	課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決できる。	—		問題意識を鍛え、より鋭いリサーチクエストンを設定できるようにする。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)		R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う		87.5%	86.9%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う		96.2%	96.3%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う		97.2%	97.9%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う		90.0%	94.7%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う		79.9%	82.5%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う		79.0%	81.2%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた ①強くそう思う, ②そう思う		83.1%	84.5%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う		79.1%	86.2%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

- ・学習指導が充実しており、学力向上に十分な成果を上げていると思う。
- ・学習評価には様々な観点を取り入れられており適切に行われていると思う。
- ・学力がつくという実感を伴い、学習意欲が湧くような学習課題を出してほしい。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

- ・探究的学習を意識した授業改善に多くの教員が取り組んでおり、今後も継続して取り組んでいきたい。
- ・生徒の自主的・主体的な学習を育むための効果的な課題への取り組みせ方を考えていき、生徒が意義を理解した上で取り組めるものにしていきたい。
- ・生徒アンケートの結果ではICT機器が有効に活用されているという回答を多くの生徒から得ており、今後さらに活用していきたい。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	5	学校名	甲府西高等学校			
全・定・通	全	学年	3	在籍生徒数	185 名	
教育目標 (学力に関するもの)		・個別最適な学びや協働的な学び、探究的な学びなどを通して主体的に学力を育成する。 ・グローバル化の進展やデジタルによる社会の変革など、時代の変化に対応した教育活動を展開する。				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		学び方を学ばせる視点のもとでの、主体性を引き出す深い学びにより、批判的な思考をとおして本質を粘り強く追求しようとする探究的に学びとる力				
各教科の取組						
教科	身に付けさせたい資質・能力		中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	実社会で活用するために必要な基礎的知識・技能(読む、書く、話す・聞く)が身に著いており、相手や目的に応じて使い分けができる。		3.5	3.9	既習事項の確実な定着のために、単元ごとに表現課題を設定するなど知識・技能を使い続けるような工夫をする。	
	言語を用いて批判的に思考・判断し、自己の意見や考えを主体的・論理的に表現したり、他と比較し、状況によってより良いものに改善したりできる。		3.4	3.8	形式や場面に応じた表現の仕方を身につけさせるために、意見文やエッセイなど様々な形式での言語化活動を行う。	
	自らの課題を考える中で、広く社会に目を向け、主体的に社会の形成に参画しようとする。		4	4.2	論理的文章と文学的文章を関連させるなど、生徒が主体的に課題に向き合うことができるように教材を工夫する。	
地公	各科目での見方・考え方を働かせ、多面的・多角的な視点を踏まえた知識を得ることができる。		3.2	3.4	各単元で、どの様に既習事項を使うことが出来るかを意識させる。これを地理・公民・歴史間でも行える様にする。	
	授業で学んだことを、現実世界での事柄に応用させ、社会的事象を探究することができる。		3.7	3.9	史資料から読み取る活動について、史資料から直接読み取れることをまとめる活動に加え、史資料の背景を考察する活動を行う。	
	主体的に社会参画に必要な知識を得たり、社会課題について考察したりするなど、成人として相応しい考え方を身に付けている。		3.9	4.2	学んだことと実社会の文脈を明確にし、学んだことをもとに今の社会について考えることができるようにする。	
数学	数学的な見方や考え方を様々な物事に応用することができる。		3.7	3.9	数学的な見方・考え方の良さを実感して、身の周りのことに活かそうしているが、まだ的確に活用できていない。数学と物事を適切に結び付けられるように支援していく。	
	数学を活用して事象を論理的に判断・処理できるとともに、その本質を数学的表現を用いて説明できる。		3.5	4.2	数学的な議論を踏まえて事象を論理的に考えることができ、本質を捉えて、それを表現しようとしている。今は数式や図を用いて表現する場を積極的に設けていき、表現する力を向上させたい。	
	ICTを利用することで、数学的に捉えた物事や事象を深めることができる。		3.3	3.7	具体的な事象について、ICTを主体的に活用できるようになってきている。今後はより抽象的な物事や事象を深められるような活用を促していく。	
理科	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解する。協働的な学習を行い、ICTの効果的な活用ができる。		3.7	4.1	単元毎の学習目標を明確にする。協働的な学習の推進とICTの効果的な活用により、生徒が主体的に学習に向き合うことができるようにする。	
	学んだ科学的な知見を日常生活や社会との関連を図りながら、見通しをもって科学的に探究することができる。		3.6	4.2	学習事項と日常生活や社会との関連を結びつける問題・課題を提示し、協働学習や課題レポート等を通して科学的に考察させる。	
	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする。		3.5	4.1	主体的に科学に触れたいと興味を抱かせるような授業の工夫と発展的な内容や最新の科学的な時事問題などの話題を積極的に提示する。	
英語	英語の4技能5領域(聞くこと、読むこと、話すこと[発表]・話すこと[やり取り]、書くこと)において、目的や場面、状況に応じた言語運用能力とそれを支える確実な知識及び技能		3.5	3.6	与えられたフォーマットを用いてのやり取りや、準備をしてから臨むディベートにおいては、読んだり聞いたものから自分の考えを述べるという活動において、一定の成果が見られた。書くことについて知識・技能の習得に努力したものの、まだ正確性に欠けている。	
	目的や場面、状況に応じて自らの考えを的確に表現したり、相手の考えや物事に対して批判的に考えたりできる思考力・判断力・表現力		3.6	3.7	日常的な話題であれば自分の意見を言うことはできるが、社会的な話題については目的、場面、状況に応じて意見を述べることがまだできていない。まだ表現の幅は限られる。	
	自ら積極的に学ぼうとしたり、コミュニケーションを取ろうと主体的に取り組む態度		4.6	4.6	英語をコミュニケーションツールとして使用する機会が乏しく、まだその意識が薄い。生徒同士や対教師とコミュニケーションを積極的にとろうとする姿勢はみられる。大学入試を通して自立した学習者へと成長した。	
芸術	作品を通して、様々な表現から概念を形成し、一貫性のある活動を行う。		3.5	3.6	意図を様々な要素を通して工夫しながら表現し、多様な表現に共通する概念を形成していけるよう支援していく。	
	鑑賞活動を通して、批判的なものの捉え方によって様々な視点を持つ。		3.5	3.7	作品の解釈に際し、多面的なとらえ方があることを理解し、解釈の多様性を感じ取れるよう支援していく。	
	主体的に芸術の創造活動に取り組み、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、心豊かな生活や社会を創造していくとする。		4.2	4.5	2年次で取り組んだ活動を発展できるよう、一過性の活動学習とならないように、先を見据えた芸術活動を展開できるよう支援していく。	
家庭						
保体	運動・保健の合理的、計画的な実践を通じて、運動の多様性や体力の必要性について理解し、他者と協働してスポーツを楽しむ技能を身に付ける。		3.8	4.2	運動の構造を理解し、主体的に運動に親しみ、体力や技術の向上を目指せるように支援していく。	
	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、その合理的解決に向けて思考し、他者と協働してより良いスポーツライフを送るための方法を伝えられる。		4.1	4.3	自己や他者の運動課題を発見し、お互いにより良くするためのアドバイスをする機会を増やす。授業内の振り返り時間やICTを活用し、さらに力を高めるよう支援していく。	
	運動における競争や協働の経験を通じて、一人一人の違いなどを大切にしようとする資質を身に付けると共に、健康・安全を確保しながら生涯に渡ってより良いスポーツライフを送れるようにする。		4.3	4.4	技能や体力の違いに考慮しながら、他者と協力することができた。各種目で起こりうる傷害を防止しながら、安全に活動できる環境を作れるよう支援していく。	

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報				
総探	自らの役割を果たしつつ、他者の考えや立場を理解し、他者と協力できる。	—		リサーチクエストンの内容が似ている者同士では、協力して調査・研究をできるようにする。
	自らの思考や感情を律しつつ、物事を前向きに考える力がある。	—		知識自体を疑い、より深い思考ができるように、知識に磨きをかけていく。
	課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決する。	—		問題意識を鍛え、より鋭いリサーチクエストンを設定できるようにする。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)		R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う、②そう思う		89.0%	86.2%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う、②そう思う		96.5%	84.4%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う、②そう思う		98.9%	93.5%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う、②そう思う		96.9%	91.0%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う、②そう思う		79.6%	83.0%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う、②そう思う		79.3%	71.7%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた ①強くそう思う、②そう思う		86.1%	92.6%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う、②そう思う		63.8%	72.7%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

- ・学習指導が充実しており、学力向上に十分な成果を上げていると思う。
- ・学習評価には様々な観点を取り入れられており適切に行われていると思う。
- ・学力がつくという実感を伴い、学習意欲が湧くような学習課題を出してほしい。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

- ・探究的学習を意識した授業改善に多くの教員が取り組んでおり、今後も継続して取り組んでいきたい。
- ・生徒の自主的・主体的な学習を育むための効果的な課題への取り組みせ方を考えていき、生徒が意義を理解した上で取り組めるものにしていきたい。
- ・生徒アンケートの結果ではICT機器が有効に活用されているという回答を多くの生徒から得ており、今後さらに活用していきたい。